

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	見附市立見附中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	3	14	25
生徒数	121	114	123	6	364	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の向上を目指して ～個に応じた指導のための教材開発～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

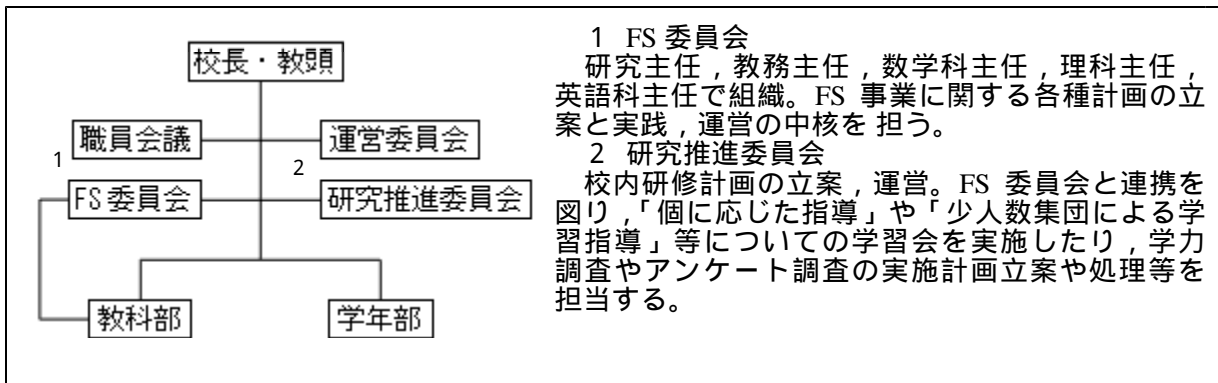
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生・数学（習熟度別指導） 習熟度に差がある上、1クラス38名と多く、個に応じたきめ細かな指導を施す必要があるため。 ・ 2年生・理科（小中連携 TT） 理科は数学とともに系統性が強い教科である。小学校との繋がりを明確にした指導過程や指導方法を工夫することで、生徒の学習経験に即したきめ細かな学習指導を展開したいと考えた。 ・ 2年生・英語（TT） 実践的コミュニケーション能力を高めるには、TT形態が最良と考えたため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力の向上を目指して ～個に応じた指導のための教材開発～」</p> <p>研究の見通し</p> <p>(1) 1学期...校内研修の充実と実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修における学習会（少人数指導等について） ・ NRT, 中教研学力調査, 学習状況アンケートの実施と分析等 <p>(2) 2学期...実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業の実施 ・ 小中連携（交流授業等）の実施 <p>(3) 3学期...評価と公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月16日中間発表会（全体会, 数・理公開授業, 分科会） ・ リーフレット作成, HPでの公開 ・ 学校評価と来年度の見通し <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの指導形態で授業を行ったときの成果と課題, 留意点等 ・ 実際に開発した教材や課題の有効性の検証 ・ 指導形態の特性を十分引き出す, 個に応じた指導のための教材を作成する上でのポイントや留意点 <p>(2) 研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力実態の把握 NRTと県中教研「学習指導改善調査」の結果を分析, 考察 ・ 学びの実態の把握 6月と12月に実施する「学習状況アンケート」や, 授業中の見取り, 自己評価カード等から把握する。 ・ 各教科で具体的な方策を立て, 実践し, 研究内容について検証する。
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 平成15年度を継続する。ただし、学習意欲を高めるための指導も研究していきたい。 研究の見通し (1) 1学期...校内研修の充実、実態把握、昨年度からの継続 (2) 2学期...実践(10月中旬に研究報告会を実施予定) (3) 3学期...まとめ、評価と公開</p> <p>研究の内容・方法 基本的に研究内容を深めるため、継続した研究を行う。</p>
--------	--

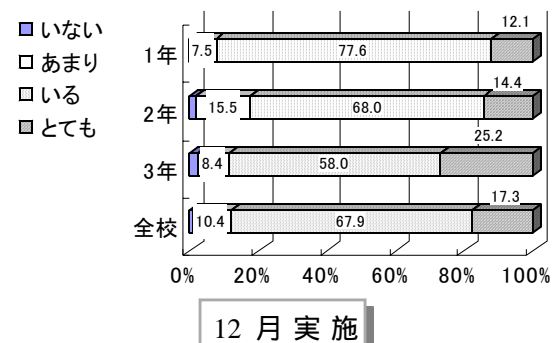
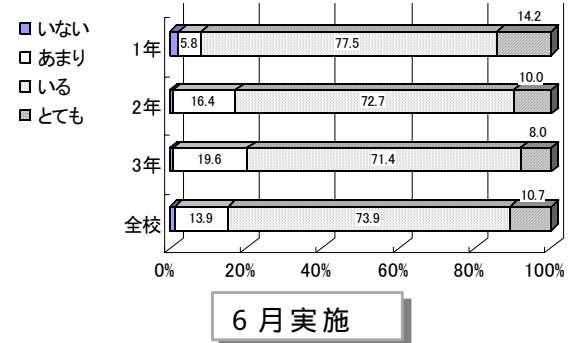
(3) 研究推進体制



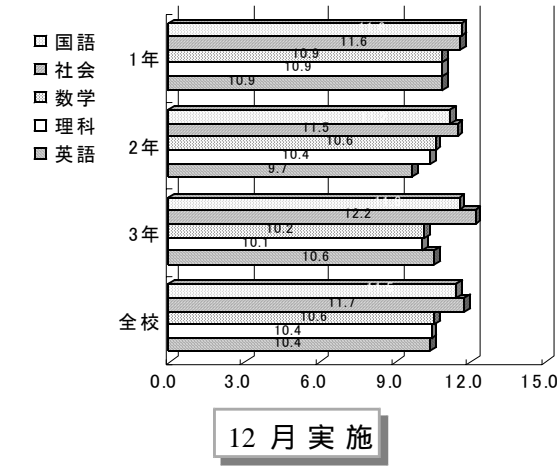
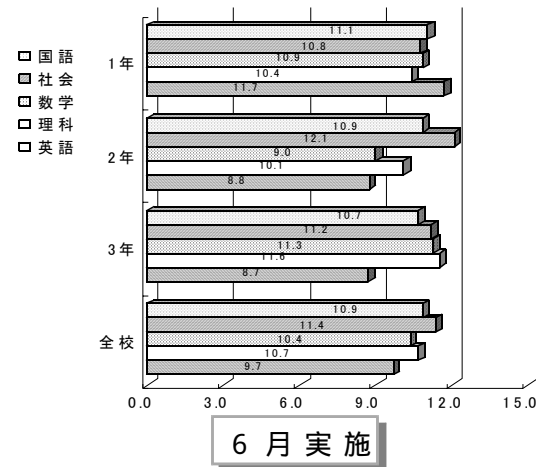
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

〔設問1 学校の授業に一生懸命取り組んでいますか〕



〔設問2 授業を15点満点で評価してください(分かりやすさ, 楽しさ, 真剣さ..各5点)〕



設問1では、微増ではあるがプラス領域(とても一生懸命取り組んでいる+一生懸命取り組んでいる)が増え、12月調査では85%を超えている。また、設問2でも、少数の学年・

教科以外は生徒による評価が上がっている。

実際に行った学習状況アンケートでは、この他にも幾つかの設問があったが、それらの結果を踏まえても、授業改善の取組の成果は確実に実を結びつつあるととらえている。

なお、FS 事業に取り組んでからの学力の変容については、来年度の4月に実施する NRT や全県学力調査の結果により詳しく考察する。

また、小中連携として、見附小学校5年で図工の TT を2回、小学校6年生で理科の授業を2回実施した。このような取組は、中1ギャップの緩和に貢献するものと期待される。

2. 今後の課題

小中連携については、教科の系統性を明らかにして互いの授業に生かす点では確かに成果がある。しかし、打合せや共同で行う教材研究等の都合がなかなか合わない。多忙なこともあり、小中連携授業の加配等、思い切った施策をとらないと、継続した連携は難しいのではないかと考える。

家庭学習の時間が短い、つまり学習習慣が身に付いていない生徒が少なくない現状も明らかになった。「学ぶ意欲の向上と学びの習慣化」のために、学習における「自己強化」の支援や、生徒・保護者の啓発等にも力を注ぐ必要がある。

学力把握のための学校としての取組

・ NRT (4月)

学力偏差値、学力偏差、OA と UA、小問分析等で個々の生徒及び集団としての学力や特徴を、全国と比較しながら明らかにする。

・ 中教研学力調査 (5月)

新潟県のいう A ~ C 学力の定着具合や正答率を、県との比較から考察する。

・ 学習状況アンケート調査 (6月, 12月)

学習に対する意識、家庭学習の状況、通塾率等を調べる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・平成16年2月16日(月)1年次中間発表会(当校にて,80名参加)の予定

・平成16年10月中旬 2年次まとめの発表会(当校にて)の予定

・HPにて,普段の取組及び研究紀要を公開予定

・FS見附地区協議会(代表校長)にて,FS事業の成果や課題を発表(年2回)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校

【学校規模】 □ 3学級以下 □ 4～6学級
 □ 7～9学級 □ 10～12学級
 ■ 13～15学級 □ 16学級以上

【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 ■ その他

【研究教科】 □ 国語 □ 社会 ■ 数学 ■ 理科
 ■ 外国語 □ 音楽 □ 美術 □ 技術・家庭
 □ 保健体育 □ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 ■ 無